

基本計画書

基本計画											
事項	記入欄							備考			
計画の区分	研究科の専攻に係る課程の変更										
フリガナ設置者	コウリツダイガクホウジン サッポロシリツダイガク 公立大学法人 札幌市立大学										
フリガナ大学の名称	サッポロシリツダイガクダイガクイン 札幌市立大学大学院 (Graduate School of Sapporo City University)										
大学本部の位置	北海道札幌市南区芸術の森1丁目										
大学の目的	札幌市立大学大学院は、人間重視の考え方を基盤として学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、知と創造の拠点として札幌市におけるまちづくり全体により大きな価値を生み出し、地域社会に対する積極的な貢献を果たすことを目的とする。										
新設学部等の目的	看護学研究科博士後期課程では、自立した研究者として様々な看護現象に対して、深く研究に取り組み、看護の枠組みの再構築やシステム開発、技術開発などを行い、看護分野における学術理論及び技能の高度化の追求を通じて、社会への貢献を果たすことを目的としている。										
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地			
	看護学研究科 [Graduate School of Nursing] 看護学専攻博士後期課程 [Course of Nursing]	3年	3人	-	9人	博士(看護学)	平成24年4月第1年次	札幌市中央区北11条西13丁目			
	計		3	-	9						
同一設置者内における変更状況(定員の移行、名称の変更等) <ul style="list-style-type: none"> ・平成24年4月研究科(博士後期課程)の設置にあわせ、修士課程を博士前期課程と改称する。 ・平成24年4月デザイン研究科の専攻に係る課程の変更(博士後期課程)(平成23年5月認可申請中) 											
教育課程	新設学部等の名称		開設する授業科目の総数				修了要件単位数				
	看護学研究科 看護学専攻博士後期課程		講義	演習	実験・実習	計	14単位				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等		
				教授	准教授	講師	助教	計	助手	教員等	
	新設	看護学研究科看護学専攻博士後期課程			10 (10)	4 (4)	0 (0)	- (-)	14 (14)	- (-)	3 (3)
		デザイン研究科デザイン専攻博士後期課程			10 (10)	2 (2)	1 (1)	- (-)	13 (13)	- (-)	1 (1)
		計			20 (20)	6 (6)	1 (1)	- (-)	27 (27)	- (-)	4 (4)
	既設	看護学研究科看護学専攻修士課程			9 (9)	6 (6)	3 (3)	- (-)	18 (18)	- (-)	23 (23)
		デザイン研究科デザイン専攻修士課程			14 (14)	4 (4)	2 (2)	- (-)	20 (20)	- (-)	13 (13)
		計			23 (23)	10 (10)	5 (5)	- (-)	38 (38)	- (-)	30 (30)
	合計			26 (26)	10 (10)	5 (5)	- (-)	41 (41)	- (-)	33 (33)	
	教員以外の職員の概要	職種			専任		兼任		計		
事務職員			35 (35)		7 (7)		42 (42)				
技術職員			1 (1)		2 (2)		3 (3)				
図書館専門職員			1 (1)		27 (27)		28 (28)				
その他の職員			- (-)		19 (19)		19 (19)				
計			37 (37)		55 (55)		92 (92)				

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			大学全体						
	校舎敷地	162,626.75㎡	0㎡	0㎡	162,626.75㎡									
	運動場用地	18,102.00㎡	0㎡	0㎡	18,102.00㎡									
	小 計	180,728.75㎡	0㎡	0㎡	180,728.75㎡									
	そ の 他	5,040.00㎡	0㎡	0㎡	5,040.00㎡									
合 計	185,768.75㎡	0㎡	0㎡	185,768.75㎡										
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			大学全体						
		34,941.82㎡ (34,941.82㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	34,941.82㎡ (34,941.82㎡)									
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			大学全体						
	30 室	33 室	22 室	6 室 (補助職員 -人)	0 室 (補助職員 -人)									
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数				桑園キャンパス						
		看護学研究科博士後期課程		42 室										
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	芸術の森キャンパス(デザイン学部と共用) 桑園キャンパス(看護学部と共用)						
	デザイン研究科 博士後期課程	74,000 [9,128] (71,000 [8,758])	739 [436] (739 [436])	383 [383] (383 [383])	3,250 (3,100)	6,024 (6,024)	1,725 (1,725)							
	看護学研究科 博士後期課程	36,000 [1,661] (33,000 [1,522])	1,785 [646] (1,785 [646])	1,481 [639] (1481 [639])	1,250 (984)	5,392 (5,392)	634 (634)							
	計	110,000 [10,788] (104,000 [10,280])	2,524 [1,082] 2,524 [1,082]	1,864 [1,022] 1,864 [1,022]	4,500 (4,000)	11,416 (11,416)	2,359 (2,359)							
図書館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数			大学全体						
		2,002.29㎡		223 席	110,000 冊									
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体							
		2,661.12㎡		テニスコート(2面) トレーニング室										
経 費 の 見 積 り 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度		第1年次		第2年次		第3年次		第4年次	第5年次	第6年次	大学全体 図書購入費には電子ジャーナルの整備費(運用コスト含む)を含む。	
		実験系	非実験系	実験系	非実験系	実験系	非実験系	実験系	非実験系					
	教 員 1 人 当 り 研 究 費 等	教授			1,500千円	600千円	1,500千円	600千円	1,500千円	600千円	— 千円	— 千円		— 千円
		准教授			1,050千円	450千円	1,050千円	450千円	1,050千円	450千円	— 千円	— 千円		— 千円
		講師			820千円	380千円	820千円	380千円	820千円	380千円	— 千円	— 千円		— 千円
		助教			513千円	293千円	513千円	293千円	513千円	293千円	— 千円	— 千円		— 千円
		助手			450千円	230千円	450千円	230千円	450千円	230千円	— 千円	— 千円		— 千円
	共同研究費等			17,000千円		17,000千円		17,000千円		— 千円	— 千円	— 千円		
	図書購入費	30,877千円		30,877千円		30,877千円		30,877千円		— 千円	— 千円	— 千円		
	設備購入費	33,000千円		33,000千円		33,000千円		33,000千円		— 千円	— 千円	— 千円		
学生1人当り納付金	第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		第5年次		第6年次			
	818千円		536千円		536千円		— 千円		— 千円		— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			札幌市からの運営費交付金を充当する。											
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	札幌市立大学												
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地					
		年	人	年次人	人		倍							
	デザイン学部 デザイン学科	4	80	3年次 20	360	学士(デザイン学)	1.03	平成18年度	札幌市南区 芸術の森1丁目					
	看護学部 看護学科	4	80	3年次 10	340	学士(看護学)	1.03	平成18年度	札幌市中央区 北11条西13丁目					
デザイン研究科 デザイン専攻	2	18	-	36	修士(デザイン学)	0.97	平成22年度	札幌市南区 芸術の森1丁目						
看護学研究科 看護学専攻	2	18	-	36	修士(看護学)	0.97	平成22年度	札幌市中央区 北11条西13丁目						
助産学専攻科	1	10	-	10	-	1.00	平成22年度	札幌市中央区 北11条西13丁目						
附属施設の概要		名称：札幌市立大学サテライトキャンパス 目的：地域連携研究センター（市民公開講座、リエゾン機能等） 所在地：札幌市中央区北4条西5丁目 アスティ45ビル12階 設置年月：平成18年10月（平成22年4月移転） 規模等：178㎡（専有面積）												

教育課程等の概要																
(看護学研究科看護学専攻博士後期課程)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
連携 博士 後期 科目	横断型連携特別演習	1 通	2					○		10						
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			10	0	0	0	0			
専 門 士 後 期 科目	看護学特講	1 前	2					○		4					兼3	ホニバス
	看護技術学特別演習	1 通		2					○	1	1					
	実践看護学特別演習	1 通		2					○	7	3					
	機能看護学特別演習	1 通		2					○	2						
	小計（4科目）	—	2	6	0	—			10	4	0	0	0	兼3		
研 究 指 導 科 目	後期特別研究Ⅰ	1 通	2						○	10	3					
	後期特別研究Ⅱ	2 通	2						○	10	3					
	後期特別研究Ⅲ	3 通	4						○	10	3					
	小計（3科目）	—	8	0	0	—			10	3	0	0	0			
合計（8科目）		—	12	6	0	—			10	4	0	0	0	兼3		
学位又は称号		博士（看護学）		学位又は学科の分野				保健衛生学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
博士後期連携科目から2単位、博士後期専門科目から4単位以上(必修2単位を含む)、博士後期研究指導科目から8単位、合計14単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。								1学年の学期区分				2期				
								1学期の授業期間				15週				
								1時限の授業時間				90分				

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学研究科看護学専攻（博士後期課程））			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
博士後期 連携科目	横断型連携特別演習	<p>本学の教育理念である看護とデザイン等との横断型連携について、博士後期課程において発展的に取り組む授業である。プロジェクトリーダーとしての力量を形成することをねらいとし、地域社会が抱える様々な課題について、横断的多角的な視点から分析し、その結果を踏まえ、課題解決のあり方について発展的な企画・提案を行う。具体的には、担当教員が担っている横断型連携プロジェクトにファシリテーターとして参加し、指導教員から評価を受ける。また、地域課題の解決のための先駆的かつ横断的な取組を主題として、学生が討論会の企画及び運営を担い、教員等との意見交換を通して課題の探求を深める。</p>	
博士後期 専門科目	看護学特講	<p>（概要） 看護の研究の推進、国民が求める健康生活と看護の産業化、海外市場への展開等、看護水準の向上および看護システム改革等に向けて論点を整理し、看護起業や看護指導を目指す人材に必須な基礎論を踏まえて、看護学の更なる進化、発展及び開発に取り組むことのできる提案力を形成することをねらいとする。具体的には、基盤編の学修を通して、看護研究助成金申請書等の作成に役立つアカデミック・スキルズを修得する。また、発展編の学修を通して、看護水準の向上および看護システム改革等に向けた論点の明確化ならびに課題解決に向けた企画書等の作成について学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式/全15回）</p> <p>（基盤編）</p> <p>⑦ 真田弘美/2回） トランスレーショナルリサーチ看護学の歴史的発展と先見性、重要性、実践例について学ぶ。</p> <p>③ 河原田まり子/1回） ヘルスケアにおけるアウトカムリサーチの理論的基礎と実践例について学ぶ。</p> <p>⑧ 松浦和代/3回） 研究助成採択へ向けた研究計画書の作成や研究資金調達、研究成果を発信するためのアカデミック・ライティング、助成金申請書等の作成について学ぶ。</p> <p>⑩ 木村純/1回） プロフェッショナル・ディベロップメントの諸相について学ぶ。</p> <p>（発展編）</p> <p>① 中村恵子/2回） 医療の方向性と看護の役割、人を活かす看護組織づくりについて学ぶ。</p> <p>⑨ 松下博宣/2回） 統計値から読む病院経営、医療・介護ニーズの将来推計、医療政策、国内外病院の戦略マネジメントについて学ぶ。</p> <p>⑥ スーディ神崎和代/1回） 医療の国際化に向けた今後の課題について学ぶ。</p> <p>⑥ スーディ神崎和代/1回） 医療セキュリティマネジメントについて学ぶ。</p> <p>（まとめ等）</p> <p>① 中村恵子・③ 河原田まり子・⑥ スーディ神崎和代・⑧ 松浦和代/2回） 学生企画討論会等に参加し評価を行う。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科看護学専攻 (博士後期課程))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
博士 後期 専 門 科 目	看護技術学特別演習	看護技術に関わる課題を明確にし、課題解決、検証・開発に向けた方法論を適用することにより、自身の研究へと発展させるための方策を修得する。また、他領域学生、担当教員を対象としたプレゼンテーションを通して、新たな看護技術の開発へ進化させる基盤となる高度な創造性を涵養する。具体的には、文献クリティーク、調査・実験計画書の作成等を通して、問題解決のための方法論を学ぶ。また、プレゼンテーションにより方法論を再検討・修正し、さらに看護技術開発に向けた提案を行う。	
	実践看護学特別演習	成人・老年・在宅看護学、精神看護学、および母子看護学の各領域において、学生が専攻する領域の看護実践における課題を明確にする。その課題について解決、展開に向けた方法論の検証により、自身の研究へと発展させるための方策を修得する。また、他の領域の学生及び担当教員を対象とするプレゼンテーションを通して、より高度な創造性を涵養する。具体的には、文献クリティーク、現状分析等を通して、問題解決・課題発展への適合性の検討、実践的有用性の確認のための方法論を学ぶ。また、プレゼンテーションにより方法論を再検討・修正し、さらに看護の発展・創出に向けた提案を行う。	
	機能看護学特別演習	看護における教育機能、地域の保健衛生管理機能など学生が専攻する看護の諸機能に焦点を当て課題を明確にし、課題解決、展開・開発に向けた看護教育的方法論、地域看護学的方法論の適用により、看護機能における自身の研究へと発展させるための方策を修得する。また、他領域学生、担当教員を対象としたプレゼンテーションを通して、新たな看護機能の創出への基盤となる高度な創造性を涵養する。具体的には、文献クリティーク等を通して、問題解決のための方法論を学ぶ。また、プレゼンテーションにより方法論を再検討・修正し、さらに看護機能の創出・発展に向けた提案を行う。	
博士 後期 研 究 指 導 科 目	後期特別研究 I	<p>(概要) 研究課題を決定し、博士論文作成に向けた研究の全体計画を立案し、研究計画書を作成する。</p> <p>(⑦ 樋之津淳子・⑫ 村松真澄) 看護技術・臨床看護技術のエビデンス、看護技術教育プログラムなど、基礎ならびに臨地における様々な看護技術の現象に着目・探求し、博士論文としての研究課題を明確化する。また、これらの課題を研究的・自立的に解明するための研究計画書を作成する。</p> <p>(① 中村恵子・② 内田雅子・④ 坂倉恵美子・⑥ スーディ神崎和代・⑪ 菊地ひろみ) 成人・老年・在宅看護学において文献精読等により研究課題を決定し、博士論文作成に向けた研究計画書を作成する。この過程を通し、自立的に研究テーマを焦点化し、研究計画を立案する能力の育成をねらいとする。</p> <p>(⑩ 山本勝則・⑬ 守村洋) 精神看護学領域における研究課題を決定し、博士論文作成に向けた研究計画書を作成する。この過程を通し、自立的に研究テーマを焦点化し、研究計画を立案する。</p> <p>(⑧ 松浦和代・⑨ 宮崎みち子) 母子看護学領域における研究課題を決定し、博士論文作成に向けた研究計画書を作成する。この過程を通し、自立的に研究テーマを焦点化し、研究計画を立案する。</p> <p>(③ 河原田まり子) 地域におけるメンタルヘルスケア、公衆衛生看護など地域看護における様々な現象に着目・探求し、博士論文としての研究課題を明確化する。また、これらの課題を研究的・自立的に解明するための研究計画書を作成する。</p> <p>(⑤ 定廣和香子) 看護の専門職性、看護学実習指導、看護学教育カリキュラム、看護学教員のFDなど、看護教育における様々な現象に着目・探求し、博士論文としての研究課題を明確化する。また、これらの課題を研究的・自立的に解明するための研究計画書を作成する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科看護学専攻 (博士後期課程))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
博士後期 研究指導科目	後期特別研究Ⅱ	<p>(概要) 研究課題に基づき、後期特別研究Ⅰで作成した研究計画を洗練し、計画を実施する。また、博士論文に関連する研究論文を作成・投稿する。さらに、博士論文全体の進捗状況について中間発表を通して報告・検討し、博士論文完成に向けての課題を明確化する。</p> <p>(⑦ 樋之津淳子・⑫ 村松真澄) 看護技術・臨床看護技術のエビデンス、看護技術教育プログラムなどの研究テーマについて、研究計画を洗練し、計画を実施する。また、これらの過程を通し、看護技術に関する独創性・発展性・活用可能性の高い研究成果を産出するための課題を明確化する。</p> <p>(① 中村恵子・② 内田雅子・④ 坂倉恵美子・⑥ スーディ神崎和代・⑪ 菊地ひろみ) 成人・老年・在宅看護学における研究課題に基づき、後期特別研究Ⅰで作成した研究計画を洗練し、計画を実施する。また、博士論文に関連する研究論文を作成・投稿する。さらに、博士論文全体の進捗状況について中間発表を通して報告・検討し、博士論文完成に向けての課題を明確化する。これらの過程を通し、自立的に研究に取り組み独創性、発展性、汎用性の高い研究成果を創出するための自己の課題を明確化する。</p> <p>(⑩ 山本勝則・⑬ 守村洋) 精神看護学領域における研究課題に基づき、後期特別研究Ⅰで作成した研究計画を洗練し、計画を実施する。また、博士論文に関連する研究論文を作成・投稿する。さらに、博士論文全体の進捗状況について中間発表を通して報告・検討し、博士論文完成に向けての課題を明確化する。これらの過程を通し、自立的に研究に取り組み独創性、発展性、汎用性の高い研究成果を創出するための自己の課題を明確化する。</p> <p>(⑧ 松浦和代・⑨ 宮崎みち子) 母子看護学領域における研究課題に基づき、後期特別研究Ⅰで作成した研究計画を洗練し、計画を実施する。また、博士論文に関連する研究論文を作成・投稿する。さらに、博士論文全体の進捗状況について中間発表を通して報告・検討し、博士論文完成に向けての課題を明確化する。これらの過程を通し、自立的に研究に取り組み、独創性、発展性、汎用性の高い研究成果を創出するための自己の課題を明確化する。</p> <p>(③ 河原田まり子) メンタルヘルスケア、公衆衛生看護などの研究テーマについて、研究計画を洗練し、計画を実施する。また、これらの過程を通し、地域における保健衛生管理機能に関しての独創性・発展性・活用可能性の高い研究成果を産出するための課題を明確化する。</p> <p>(⑤ 定廣和香子) 看護の専門職性、看護学実習指導、看護学教育カリキュラム、看護学教員のFDなどの研究テーマについて、研究計画を洗練し、計画を実施する。また、これらの過程を通し、看護教育機能に関しての独創性・発展性・活用可能性の高い研究成果を産出するための課題を明確化する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科看護学専攻 (博士後期課程))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
博士 後期 研究 指導 科目	後期特別研究Ⅲ	<p>(概要) 研究課題について後期特別研究Ⅰ・後期特別研究Ⅱで立案した研究計画に基づき、研究過程を推進し、博士論文を完成する。また、博士論文審査・発表を通して、論文作成過程を自己評価し、研究者として課題を明確化し、自立的に先駆的・独創的な研究を推進する。</p> <p>(⑦ 樋之津淳子・⑫ 村松真澄) 看護技術・臨床看護技術のエビデンス、看護技術教育プログラムなどの研究テーマについて、研究計画を推進し、博士論文を完成する。また、博士論文の審査・発表の過程を通し、看護技術学領域の研究者として課題を明確化し、自立的に先駆的・独創的な研究を推進する。</p> <p>(① 中村恵子・② 内田雅子・④ 坂倉恵美子・⑥ スーディ神崎和代・⑪ 菊地ひろみ) 成人・老年・在宅看護学における研究課題について後期特別研究Ⅰ・後期特別研究Ⅱで立案した研究計画に基づき、研究過程を推進し、博士論文を完成する。また、博士論文審査・発表を通して、論文作成過程を自己評価し、実践看護学領域の研究者として課題を明確化し、自立的に先駆的・独創的な研究を推進する。</p> <p>(⑩ 山本勝則・⑬ 守村洋) 精神看護学領域における研究課題について後期特別研究Ⅰ・後期特別研究Ⅱで立案した研究計画に基づき、研究過程を推進し、博士論文を完成する。また、博士論文審査・発表を通して、論文作成過程を自己評価し、実践看護学(精神看護学)領域の研究者として課題を明確化し、自立的に先駆的・独創的な研究を推進する。</p> <p>(⑧ 松浦和代・⑨ 宮崎みち子) 母子看護学領域における研究課題について後期特別研究Ⅰ・後期特別研究Ⅱで立案した研究計画に基づき、研究過程を推進し、博士論文を完成する。また、博士論文審査・発表を通して、論文作成過程を自己評価し、実践看護学(母子看護学)領域の研究者として課題を明確化し、自立的に先駆的・独創的な研究を推進する。</p> <p>(③ 河原田まり子) メンタルヘルスケア、公衆衛生看護などの研究テーマについて、研究計画を推進し、博士論文を完成する。また、博士論文の審査・発表の過程を通し、地域看護学領域の研究者として課題を明確化し、自立的に先駆的・独創的な研究を推進する。</p> <p>(⑤ 定廣和香子) 看護の専門職性、看護学実習指導、看護学教育カリキュラム、看護学教員のFDなどの研究テーマについて、研究計画を推進し、博士論文を完成する。また、博士論文の審査・発表の過程を通し、看護教育学領域の研究者として課題を明確化し、自立的に先駆的・独創的な研究を推進する。</p>	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。